

研究 主題	自分の考えを持ち、考えを深めることができる児童の育成 －説明的な文章における文章構造からの内容把握と考えの交流を通して－
----------	---

## 第6学年国語科学習指導案

指導月日 令和5年10月19日  
所属校名 角田市立横倉小学校  
氏名 小松 美穂

### 1 単元名「町の未来の姿を考えよう」

#### 2 単元の目標

- (1) 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。 [知識及び技能] (2)イ  
(2) 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。 [思考力、判断力、表現力等] C(1)ウ  
(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

#### 3 取り上げる言語活動と教材

言語活動 自分たちの住む町の未来について考えたことを基に、必要な情報を見付け、まとめたことを報告する。 (関連：[思考力、判断力、表現力等] C(2)ウ)

教材 「町の幸福論ーコミュニティデザインを考える」(東京書籍 新しい国語六)

#### 4 単元観

本単元は、小学校学習指導要領解説国語編の第5学年及び第6学年の内容〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ウ「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること」を重点指導事項として設定したものである。C(1)ウは、第3学年及び第4学年のウを受け、目的に応じて、C(1)ア「事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること」で捉えた要旨を手掛かりとして、必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることを示している。

本単元で扱う教材「町の幸福論ーコミュニティデザインを考える」は、序論ー本論ー結論、問いと答え、事例が明確であり、筆者の論の進め方も捉えやすいため、必要な情報を見付けて読むという既習事項を生かして文章構成や事実や意見を捉えながら論の進め方について考えることができる教材である。また、児童は、筆者が挙げている事例や図表が筆者の考えを分かりやすくする効果があることを理解できると考える。

本単元では、自分たちの住む町の未来について考えたことを基に、必要な情報を見付け、まとめたことを報告するという言語活動を設定する。児童は、教材文を筆者の主張を理解するために読み、文章と図表を結び付けて考えを説明するという説明の仕方の工夫を見付け、論の進め方について学習する。その学習内容を活用し、自分たちの住む町の未来について調べ、考えたことを、文章にまとめて報告する活動を通して、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりする力を身に付けることができると考え、本単元を設定した。

## 5 児童の実態 [第6学年1組26名]

これまでに児童は、「イースター島にはなぜ森林がないのか」で、筆者がどのような事実を理由や事例として挙げているかに着目して文章全体の構成を捉え、どのような論の進め方をして説得力を高めようとしているかについて考える学習をしてきた。その際、文章構成シートを活用し、文章の構成や筆者の考えを個別や全体で確認した。文章構成を全体で確認しながら学習を進めることにより、論の進め方について捉えることができた。単元終了後の意識調査において、文章の構成や筆者の考えを捉え、論の進め方を確かめることができたか調査したところ、「できた」「どちらかといえばできた」と肯定的に回答した児童が21人いた。序論—本論—結論の内容を自力で捉えることができるようになったことがその要因と考える。このように、児童は、問いと答えを見付けて文章構成を確かめ、事例が挙げられていることで説得力のある文章になっていることに目を向けられるようになっている。しかし、児童の感想を見ると、自信を持って自分の考えを持ったり、自分の考えを深めたりすることができたという実感を児童に持たせる授業には至っていない。理由として、自分の考えを文章の内容や構造から根拠を持って振り返らせること、自分の考えの変容に気付かせることが不十分だったことが挙げられる。教科書の叙述を根拠にしたり、自分の知識や経験を結び付けたりして自信を持って自分の考えを持つことや自分の考えが深まったという実感を持つことができるように指導を工夫していく必要があると考える。

## 6 指導観

本単元では、1時間目に、図表やグラフなどを用いて、自分たちの住む町の未来について考えたことを報告し合う活動を通して、目的に応じて、必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりする力を身に付けるという学習目標を伝え、見通しを持たせる。また、町の幸福論を読んで分かったことや考えたことについて感想を交流させることで、筆者の述べるコミュニティデザインの考え方や筆者が論の進め方を工夫していることに気付かせる。

2、3時間目には、文章と図表を結び付けて説明することによって、図表が文章の内容を補い、読み手の理解を助けていることに気付かせるために、筆者の説明の工夫について文章構成シートに記入させる。文章構成や論の進め方については既習事項でもあることから、文章構成シートは個別にまとめさせる。さらに、児童が文章構成シートに記入したことを全体で交流させることで、どの児童も文章構成を押さえた上で、図表などの資料を使って説明することの効果について理解を深めることができるようにする。その際、友達の考えと比較しながら聞いたり、自分の考えを見直したりする活動を通して新たな気付きを得ることで自分の考えが確かなものになり深まっていくことを実感させる。

4時間目から8時間目には、自分たちの住む町の未来についての考えを文章にまとめて報告させるために、自分たちの住む町の良さや課題について全体で共有させる。その際、考えを分かりやすく説明したり集中して聞いたりすることができるように、Google Jamboard（以下Jamboardとする）に良さや課題についてキーワードで入力し、その理由を説明させる。次に、共有したことや筆者の考えるコミュニティデザインの考え方を参考にして、自分たちの住む町の未来について考えたことをノートにまとめさせる。その後、説得力を高める資料をインターネットから見付けさせる。児童が資料を選ぶ前に、目的に応じた必要な情報の見付け方の例として、教師が文章に関係する複数の資料を示し、どの資料が文章の内容をより分かりやすくすることができるか、資料の効果全体で確かめさせる。さらに、自分の考えを報告する文章に効果的な資料を選ばせた後は、効果的な資料の活用がされているか、自分の考えが論の進め方を工夫して分かりやすく説明できているかについて、グループで交流をさせる。交流後、自分の考えの報告について見直していくことで、よりよい報告になっていることを実感できるようにさせる。

## 7 研究主題との関連

本研究では、文章構成や筆者の考えを捉え、自分たちの住む町の未来について自分の考えを持ち、

グループで報告することで自分の考えを深めることができるように、以下の手立てを講じる。

(1) 文章を正確に読むための文章構成の確認

① 文章構成と筆者の考えを捉える

第一段階として、序論－本論－結論に分けさせる。接続語、指示語、文章表現に着目させ、筆者の考えを文章構成シートにまとめさせる。文章構成シートは、個別でまとめさせる。

② 論の進め方を捉える

第二段階として、筆者が読み手に伝えるために行っている説明の工夫を捉えさせる。児童に、問いと答え、事例を挙げて説明したり、文章と図表などを結び付けて説明したりすることで、説得力のある文章になっていることを確かめさせる。説明をする際の図表などの効果として、文章をより分かりやすく説明していることに気付かせる。必要に応じて文章構成シートに気付いたことを記入させる。

(2) 自分の考えを深めるための交流の工夫

① 自分の考えをまとめ、友達と交流する

筆者の説明の仕方の工夫や論の進め方の良さについて自分の考えをノートや Jamboard にまとめ、友達と交流させる。自分の考えと比べながら聞くようにさせ、友達の考えの良さを認めながら、新しい気付きをノートや文章構成シートに記入させる。

② 自分の考えを見直す

友達と交流した後、自分と友達の考えを比較させ意見や感想の違いを明確にさせたり、教科書に立ち返って根拠を確認させたりして、自分の考えを見直す活動を行わせる。既習事項を生かしながら自分の考えを深めさせる。振り返りでは、自分の考えの変容について振り返らせ、自分の考えの深まりを実感させる。

8 単元の指導と評価の計画

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(2)イ)	「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(C(1)ウ)	進んで、自分たちの住む町の未来について考え、学習課題に沿って分かったことや考えたことを報告しようとしている。

(2) 単元の全体計画（8時間扱い 本時3／8）

時	○主たる学習活動 ・ 指導上の留意点	評価規準・評価方法
1	○単元の目標を確認し、学習の見通しを持つ。 ○文章を通読し、初読の感想を書き、伝え合う。 ・町の幸福論について分かったこと、考えたことについて書くように指示する。	
2	○文章の構成を確かめる。 ・序論－本論－結論を分けさせ、内容を簡潔に文章構成シートの上段に記入させる。	
3 本 時	○論の進め方を確かめる。 ・文章構成シートを手掛かりに、筆者の説明の仕方の工夫について見付けさせ、論の進め方を確かめさせる。 ・図表と関連付けながら、事例を確かめさせることで、図表が文章を補う役割をしているこ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[知識・技能]  <u>発言・ノート・文章構成シート</u>                      ・情報と情報との関係付けの仕方、図表などによる語句と語句との関係の表し方を理解しているかの確認</p> </div>

	<p>とに気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例と図表を結び付けて説明することによって、説得力のある文章になっていることを確かめさせる。</li> <li>・筆者の論の進め方について捉えたことを、友達と交流する。</li> <li>・交流を通して、自分の考えを見直させる。</li> </ul>	<p>[思考・判断・表現]  <u>発言・ノート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の考えを捉えるために、文章と図表を結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、資料の活用などの論の進め方について考えたりしているかの確認</li> </ul>
4 5	<p>○自分たちの住む町の未来のイメージを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの住む町の良さや課題を挙げさせ、未来のイメージを持たせる。</li> <li>・未来のイメージを基に、課題を解決するために、他の地域の事例を見付けさせる。</li> </ul>	
6 7 8	<p>○報告する文章を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説得力のある文章にするために、事例や資料を使い、自分の考えをまとめさせる。</li> </ul> <p>○自分たちの住む町の未来について、自分の考えを報告する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに、自分の考えを発表させる。</li> <li>・文章と図表を結び付けたり、論の進め方を工夫したりすることで、説得力のある文章になっているかについて友達と交流し、自分の考えを見直させる。</li> </ul>	<p>[主体的に学習に取り組む態度]  <u>発言・ノート・報告書</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで、自分たちの住む町の未来について考え、学習課題に沿って分かったことや考えたことを報告しようとしているかの確認</li> </ul>

## 9 本時の計画

### (1) 目標

筆者の主張と関連付けて事例を捉え、文章と図などの関係を理解することができる。

[知識及び技能]

目的に応じて、文章と図表を結び付けるなどして必要な情報を見付け、論の進め方について考えたことを文章にまとめることができる。

[思考力、判断力、表現力等]

### (2) 本時の指導に当たって

文章構成や論の進め方をまとめた文章構成シートを手掛かりに、筆者の説明の仕方の工夫について自分の考えを書かせる。全体で意見の交流をさせ、筆者が文章と図表を結び付けて説明することにより、筆者の主張が効果的に伝わることに気付かせる。

### (3) 学習過程

段階	学習活動 ○主な発問・指示◆予想される児童の反応	形態	・指導上の留意点	評価
導入 5分	<p>1 前時までの学習内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・結論で述べている筆者の主張を音読します。</li> </ul> <p>2 本時のめあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町の幸福論を読んで、筆者の主張が強く伝わったり、自分が納得できたりした理由について、筆者の説明の仕方の工夫に着目しながら考えます。</li> </ul>	一 斉 一 斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者が考える本当に豊かな「町の幸福」を捉えるために、文末表現に着目させ、筆者が最も強く主張する一文を見付けさせる。</li> </ul>	
			<p>筆者の論の進め方について考えたことをまとめ、説明しよう。</p>	

<p>展開 35分</p>	<p>3 筆者が説明の中で使っている事例や資料の効果について確かめる。</p> <p>○論の進め方に着目して、筆者の説明の仕方の工夫を見つけましょう。</p> <p>◆序論では、コミュニティデザインの考え方である人々のつながりが大切であると筆者が伝えている。</p> <p>◆本論では、コミュニティデザインの目的を説明し、その事例を挙げている。</p> <p>◆事例ごとに、写真やグラフなどを使って説明している。</p> <p>4 文章と図表を結び付けて、筆者の論の進め方を確かめる。</p> <p>○事例と資料を結び付けて筆者が説明することで、どのように分かりやすくなりましたか。</p> <p>◆地域の住民たちが主体的に町作りに取り組むということを説明するために、土祭と有馬富士公園の事例を挙げている。</p> <p>◆事例1と2は、地域住民の主体的な取組で人々のつながりが生まれたことが分かる。</p> <p>◆表とグラフがあることで、教科書に書いてあるとおり、人々のつながりが増えたことが分かった。表とグラフがあることで、10年間で交流が盛んになったことも分かった。</p> <p>◆事例3は、地域の課題を解決するためのコミュニティデザインについて説明されている。未来のイメージをしっかり持って課題に取り組むことが大切だということが図や海士町の事例から分かる。</p> <p>5 筆者の論の進め方について考えたことをまとめる。</p> <p>・自分の考えをまとめた後に、全体で交流します。</p> <p>○筆者の主張が強く伝わってきたり、自分が納得したりした理由を、筆者の論の進め方に沿って説明しましょう。</p> <p>◆筆者は、コミュニティデザインの目的を説明しながら、読み手を納得させる書き方をしていた。事例1と2では「地域の住民たちが主体的に町作りに取り組むということ」、事例3では、「未来のイメージを持つこと」が重要だということが分かった。</p> <p>◆筆者は、序論でコミュニティデザインの考え方が大切だと伝え、更に、結論で強く主張していた。また、資料があることで説明が分かりや</p>	<p>一斉</p> <p>グループ 一斉</p> <p>個別 一斉</p>	<p>・筆者の主張を捉えやすくするために、行っている説明の仕方の工夫に目を向けさせる。</p> <p>・どの事例にどの資料を使っているかを確認して振り返らせ、筆者が、文章と5種類の資料（写真2枚、グラフ、表、図）を使って説明していることに気付かせる。</p> <p>・それぞれの資料が、どのように文章を分かりやすく明確にしているかを捉えさせるために、教師が複数の資料を提示し、資料の効果を全体で交流し確かめる。</p> <p>・資料から分かったこと、新たに気付いたことをメモさせる。【手立て1②】</p> <p>・筆者の論の進め方を捉えさせるために、全体で交流させる。また、児童の考えから共有したい言葉を板書する。 【手立て2①】</p> <p>・文章構成シートを手掛かりに、問いと答え、事例の挙げる方、資料の効果などの工夫を使いながら自分の考えをまとめさせる。</p> <p>・文章でまとめることが難しい児童には、資料があるときと無いときを比較させ、どちらの主張が伝わりやすい文章になっているかを考えさせる。</p>	<p>[知識・技能] 発言・ノート 文章構成シート</p> <p>[思考・判断・表現] 発言・ノート</p>
-------------------	--	---	---	--

	<p>すくなっていると、文章を手助けする役割をしていた。</p> <p>○自分の考えを書いた文章を見直しましょう。</p> <p>・自分の考えを見直したり、新たな考えを付け足したりします。</p>	個別	<p>・交流で気付いたことを生かし、自分の考えを書いた文章を再考させる。特に変容が見られた児童数人を発表させる。【手立て2②】</p>	
終末5分	<p>6 本時の学習を振り返る。</p> <p>○今日の学習を振り返りましょう。</p> <p>◆友達の考えを聞いて、資料を使うことで、文章だけでは分かりづらい部分を説明できると感じた。</p> <p>◆筆者の説明は、町の未来を考えたいと思うような文末表現や論の進め方がされていた。</p>	一斉	<p>・友達の考えを聞き、どのような学びがあったかを振り返らせる。</p> <p>・図表などの効果について確かめさせ、自分たちも報告するときに活用できることを共有させる。</p>	

(4) 本時の評価

評価の観点	評価規準	十分満足できる (A)	努力を要する児童 (C) への手立て
知識・技能	筆者の主張と関連付けて事例を捉え、文章と図などの関係を理解して文章構成シートにまとめている。	筆者の主張と関連付けて事例を挙げたり、図などの関係を理解し、文章構成シートやノートにまとめたり説明したりしている。	友達や教師との関わりを通して、筆者が説明の中で使用した5つの資料を掲示し、どの文章を説明しているか段落ごとに確かめさせる。
思考・判断・表現	筆者の考えを捉えるために、文章と図表を結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、資料の活用などの論の進め方について考えたりしている。	論の進め方の工夫について、事例同士の関わりや資料の効果について理解したことを基に、根拠を持って自分の考えを説明している。	友達や教師との関わりを通して、図表が有る場合と無い場合を比較させ、文章の説得力が変わることを確かめさせる。

(5) 準備物

- ①教師：教科書、文章構成シート、掲示用資料
- ②児童：教科書、文章構成シート、ノート

(6) 板書計画

